

自殺対策推進 レアルとは

自殺対策推進レアルは、いのち支える自殺対策推進センターが中心になって進めている革新的自殺研究推進プログラム等の研究プロジェクトの成果を共有し、情報発信する場として開催するものです。

いのち支える自殺対策推進センターは、現在の日本の自殺総合対策を推進する学術基盤を強化し、自殺対策の政策提言に速やかにつながるができる実践的研究と政策研究を強力にするために、革新的自殺研究推進プログラム等を推進しています。特色ある研究プロジェクトのフィールドで得られた果実（成果）を、中央市場（Les Halles：レアル）に持ち寄って、その成果を吟味し交換（情報共有）することが自殺対策推進レアルの機能です。パリのレアルに建つジョルジュ・ポンピドゥー国立芸術文化センターが最先端の現代芸術を展示する場であるように、本レアルで共有される成果物は自殺対策の最先端を提示するものであり、これらの最先端の成果物を参加者各自が自分のフィールドに持ち帰り、次のステップを更に進めていくことが期待されます。

令和2年度は、新たな組織として発足したいのち支える自殺対策推進センターとして初めての自殺対策推進レアルとなりました。



写真：令和2年度自殺対策推進レアルの様子（オンライン併用開催）

自殺対策推進レアルとは

令和2年度自殺対策推進レアル・
各種委員会の開催

令和2年度委託研究成果報告書
令和3年度委託研究公募について

令和2年度自殺対策推進レアル・各種委員会の開催

◆自殺対策推進レアルの開催◆

2020年11月24日に、令和2年度自殺対策推進レアルを開催いたしました。会議は会場とオンライン併用にて行われ、研究代表者・分担者・協力者、ガバニングボード委員（GB）、プログラムディレクター（PD）、厚生労働省にご参加いただきました。

各研究課題の代表者から、今年度の研究の中間発表（発表20分、質疑応答10分）が行われました。座長は、各領域のPDが務めました。各課題発表後の質疑応答においては、研究の推進に資する議論が行われ、活発な全体討議が行われました。

◆研究課題推進委員会の開催◆

2021年1月19日に、研究課題推進委員会を開催いたしました。会議はオンラインにて行われ、研究課題推進委員5名（PD、外部有識者、厚生労働省）にご出席いただきました。

研究代表者より提出された令和2年度委託研究報告一次報告をもとに、領域1「自殺対策に関するエビデンスの確立」（藤原武男 PD）2課題、領域2「地方自治体の支援ツールの改善」（藤原佳典 PD）2課題、領域3「新たな政策領域の開拓」（伊藤弘人 PD）2課題、計6課題について各PDより、概要および研究進捗状況、中間評価に関する説明がありました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、研究計画や手法の変更等を余儀なくされた課題も多くなりましたが、6課題ともに進捗状況は良好であることが確認されました。自殺対策における社会実装を視野に

入れながら、引き続き着実に取り組むことが期待されました。会議後、各課題に対する議論を取りまとめた意見書が各研究代表者に送付されました。

◆ガバニングボード会議の開催◆

2021年3月19日に、令和2年度第2回ガバニングボード会議をオンラインにて開催いたしました。ガバニングボード委員（GB）5名にご出席いただき、会議では以下の議題について審議が行われました。

1) 令和2年度委託研究課題の評価

研究報告資料およびGBによる評価総括表をもとに、令和2年度全6課題の総合評価に関する説明があり、「3. 優れている」、「2. 良好である」、「1. 不十分である」の3段階で総合評価が行われました。各研究課題の年度内における進捗状況と研究成果について、総合的な議論が行われました。また、革新的自殺研究推進プログラムの、一般国民に向けた啓発の必要性について指摘がありました。

2) 令和3年度の運営について

令和2年度事業報告および令和3年度日程（案）、令和3年度委託研究の公募についてに関する説明があり、いずれも承認されました。令和3年度の委託研究課題として全8課題の案が提示され、すべて承認されました。現代の社会的背景を踏まえた今後の自殺総合対策に資する研究課題についても議論がなされました。また、次期PDと次期GB委員について審議され、承認されました。

令和 2 年度 委託研究成果報告書

令和 2 年度の委託研究実績報告書
および成果報告書が提出されました。



写真：令和 2 年度委託研究成果報告書冊子

委託研究機関 6 機関より、令和 2 年度革新的自殺研究推進プログラム委託研究に関わる実績報告書類が 2021 年 3 月に提出されました。実績報告とともに成果報告書が提出され、令和 2 年度の委託研究の幕を閉じました。

令和 2 年度の公募研究課題は「自殺対策に関するエビデンスの確立」、「地方自治体の支援ツールの改善」、「新たな政策領域の開拓」という 3 つの領域でそれぞれ 2 課題ずつ（計 6 課題）、自殺対策の喫緊の課題に取り組んでいただき、迅速に社会実装につなげるということを目標に意欲的に研究を実施していただきました。

成果報告書ではその成果が示されています。すべての研究を詳細にご紹介することはできませんが、本 News Letter では 2 つの研究の概要と意義について簡単にご紹介いたします。

課題番号 1-2. DPC データによる我が国の自殺の現状に関する研究（松田晋哉先生）：松田教授のご研究は、我が国の自殺未遂の実態把握が諸外国と比べて十分でないという現状を踏まえて、DPC（診断群分類）データに基づき自殺の現状に関する分析を行ったご研究です。自殺企図症例の約半数に併存症として精神疾患が記録されていたこと、自殺企図には曜日及び月による有意な差があること（4 月から 10 月、月曜日から水曜日が多い）、誕生月と自殺企図月との間に統計学的に有意の一致が観察されること、週末は自殺企図を含めた自殺件数は少ないが死亡率は高いこと、などの新たな知見が報告されました。これらの知見は自殺未遂者対策として医療の現場にただちに還元することが必要です。さらには、自殺未遂者の現状を把握するための病院を基盤にした登録制度の構築や、地域の自殺対策拠点病院の在り方を議論するための基盤となる研究成果です。

課題番号 3-2. 災害・児童虐待等のトラウマ体験を有する人の心のケア支援の充実・改善に関する研究（金吉晴先生）：金所長のご研究は、成人 PTSD 患者において、幼少期被虐待体験が自殺リスクに及ぼ

す影響を明らかにし、同時に被虐待体験が自殺リスクに与える影響を減弱させる保護的要因を明らかにすることを目的としたご研究です。被虐待体験は重要な自殺リスク要因であり、若者等の自殺問題の解決のためにエビデンスを蓄積し成果を対策に反映させていくことが求められており、喫緊の重要課題のひとつです。研究の結果、PTSD 患者は健常対照者に比べ、幼少期被虐待体験が有意に多く、自殺念慮が有意に強いことが確認されました。PTSD 患者における自殺念慮は、幼少期の被虐待体験と有意に関連していました。そして、患者の自殺念慮は、レジリエンスの低さやソーシャルサポートの少なさと有意に関連しており、さらに幼少期被虐待体験は、ソーシャルサポートの少なさと有意に関連していました。以上より、PTSD 患者の自殺のリスク因子として、うつ病の併存に加えて、幼少期被虐待体験が重要であることが示されました。さらに虐待体験によって希薄化されたソーシャルサポートを社会資源の提供も含めて増やしていくことの重要性が示唆されました。

以上、ご紹介した令和 2 年度の研究成果を見ても、革新的自殺研究推進プログラムの学術的な質の高さと、社会実装を念頭においた優れた自殺対策研究であることをご理解いただけると存じます。

今回ご紹介できなかった他の 4 つの研究については、次号にご紹介いたします。また、報告書をお読みいただくことで、それぞれの研究成果の重要性を確認していただくことができます。

今後は、成果報告書の研究成果を自殺対策の政策に具体的に活かしていくことが必要です。科学的根拠に基づく政策形成（Evidence-based Policy Making）はわが国の自殺対策の推進においても強く求められており、自殺対策における実装科学的観点を重視した学術研究の推進はきわめて重要な政策課題です。革新的自殺研究推進プログラムの研究成果にもとづき、日本の自殺対策の政策形成がさらに充実することを心から希望いたします。



令和 3 年度 委託研究公募について

革新的自殺研究推進プログラムは、現在の日本の自殺総合対策を推進する学術基盤を強固にし、自殺対策の政策提言に速やかにつなげることができる実践的研究や政策研究を中心に、自殺対策関連分野の研究者等に対して、公募による委託研究を実施しています。

令和 3 年度は 3 領域計 8 課題の公募を行いました。ガバニングボード会議（5 月中旬開催）において厳正なる審議を行い、今年度の委託研究機関を決定する予定です。

公募課題一覧

領域 1：自殺対策に関するエビデンスの確立

課題番号 1-1. 多世代共生型地域包括ケアに向けたソーシャル・キャピタル醸成プログラムの開発

課題番号 1-2. DPC データによる我が国の自殺の現状に関する研究

課題番号 1-3. 自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐための救急医療における自傷・自殺未遂レジストリの構築

領域 2：地方自治体の支援ツールの改善

課題番号 2-1. 行政における統計データの利活用の推進に関する研究

課題番号 2-2. 妊産婦から子ども・若者に至るライフステージの総合的自殺対策に関する研究

課題番号 2-3. 新型コロナウイルス感染症流行下における大都市部の自殺実態解明に関する新たな手法の開発

領域 3：新たな政策領域の開拓

課題番号 3-1. ソーシャルメディアを活用した自殺対策に関する研究

課題番号 3-2. 災害・児童虐待等のトラウマ体験を有する人の心のケア支援の充実・改善に関する研究